

福島被害状況

X-1



①平成23年3月11日撮影、郡山市内の盲学校内図書館 書棚の転倒 (福島県提供)

X-4



④平成25年5月1日撮影、福島第一原子力発電所構内津波被害の跡 (福島県提供)

X-2



②平成23年3月12日撮影、小名浜港湾建設事務所内①津波被害の跡 (福島県提供)

X-5



⑤平成23年4月23日撮影、いわき市永崎地内大平川を溯上した津波により破壊された大平橋 (いわき市提供)

X-3



③平成23年3月12日撮影、小名浜港湾建設事務所内②津波被害の跡 (福島県提供)

X-6



⑥平成23年3月11日撮影、地震直後のいわき市庁舎内 (いわき市提供)

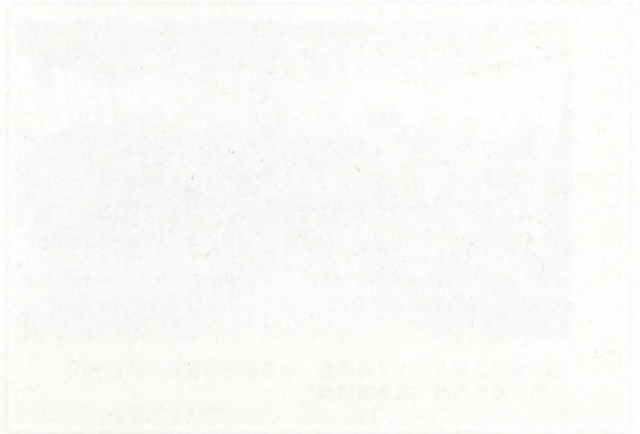
X-7



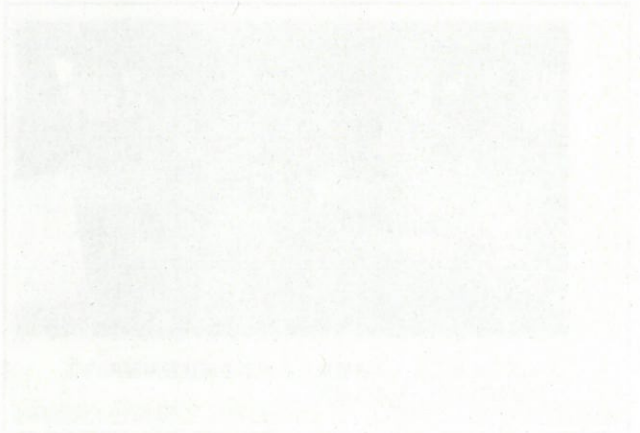
X-10



X-8



X-9



自助において

《想定にとらわれるな》

「災害は、教科書通りに起こらない」→ハザードマップに示されている浸水想定区域以上の災害が起こる可能性があると思え。東日本大震災では、余震は止まない、雪は降りだすありさまだった。

《最善を尽くせ》

「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとれ。命を守るための知識は平常時から貪欲に。

《率先避難者たれ》

いざというときには、まず自分が率先して避難すること。その姿を見て、他人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる。訓練や経験を重ねることで、咄嗟にどのような行動すべきか判断が可能になる。始めは、「マネする」→そして「マネぶ」→それから「学ぶ」になる。



避難3原則より(群馬大学大学院工学研究科・片田敏孝教授)

共助において

避難所運営の方法を学び、運営の体制を整えておく！

大災害では、公助は「万遍なく、平等に」。

十分な支援は期待できないので、自力で運営する必要がある。

地域・地区で協力を！

地域・地区にある、企業(病院・スーパー・商店・建設業者等)と、平常時から災害時に備えての協力・連携を構築しておくことも重要。

